



議会だより



町の人口

平成31年4月1日現在

男性	3,181人
女性	3,219人
合計	6,400人
世帯数	3,190戸

# わどまり



和泊町議会新議場にて

第143号

主な内容

可決された議案事項等	2 P
平成31年度当初予算	3 P
一般質問	5 P
沖永良部・与論地区議会議員大会	13 P



# 平成31年第1回定例会

議案番号	件名	議事結果
諮問 1 号	人権擁護委員候補者の推薦について <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     任期満了に伴い「本部玲子」氏を再任するもの。                      無記名投票による採決／投票総数11票 賛成11票 反対0票                 </div>	同 意
議案 1 号	和泊町公共施設等総合管理基金条例の制定について	原案可決
議案 2 号	和泊町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 3 号	和泊町実験農場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 4 号	和泊町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 5 号	和泊町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 6 号	和泊町新庁舎建設事業変更契約の締結について	可 決
議案 7 号	平成 30 年度和泊町一般会計補正予算（第 5 号）の議決について	原案可決
議案 8 号	平成 30 年度和泊町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）の議決について	原案可決
議案 9 号	平成 30 年度和泊町下水道事業特別会計補正予算（第 4 号）の議決について	原案可決
議案 10 号	平成 30 年度和泊町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 4 号）の議決について	原案可決
議案 11 号	平成 30 年度和泊町水道事業会計補正予算（第 3 号）の議決について	原案可決
議案 12 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町一般会計予算の議決について	原案可決
議案 13 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町国民健康保険特別会計予算の議決について	原案可決
議案 14 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町介護保険特別会計予算の議決について	原案可決
議案 15 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町後期高齢者医療特別会計予算の議決について	原案可決
議案 16 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町下水道事業特別会計予算の議決について	原案可決
議案 17 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町農業集落排水事業特別会計予算の議決について	原案可決
議案 18 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町奨学資金特別会計予算の議決について	原案可決
議案 19 号	平成 31 年度（2019 年度）和泊町水道事業会計予算の議決について	原案可決
議案 20 号	沖永良部与論地区広域事務組合からの脱退について	可 決
陳情 1 号	全国知事会の（米軍基地負担に関する提言）の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見書を提出する事を求めるについて	付 託
陳情 4 号	辺野古新基地建設を中止 全国民の責任で解決をはかる陳情書	付 託
	議員派遣について	可 決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について	可 決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出書について	可 決
	特別委員会の閉会中の継続調査申出書について	可 決

# 平成31年度(2019年度)第1回定例会

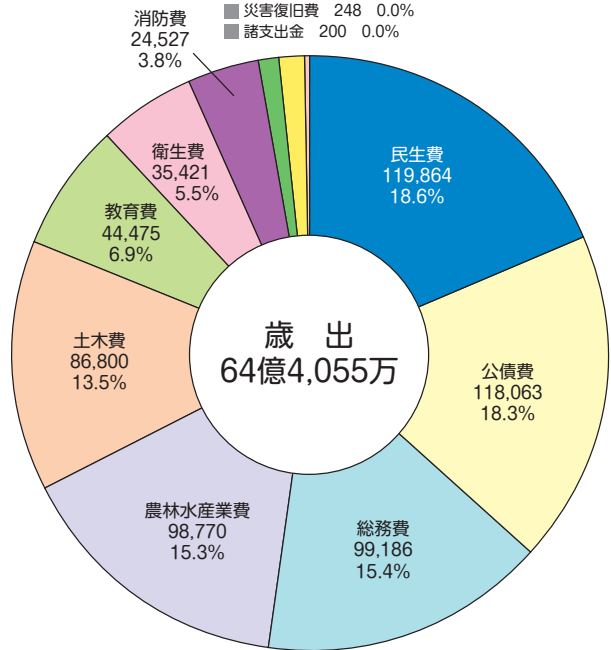
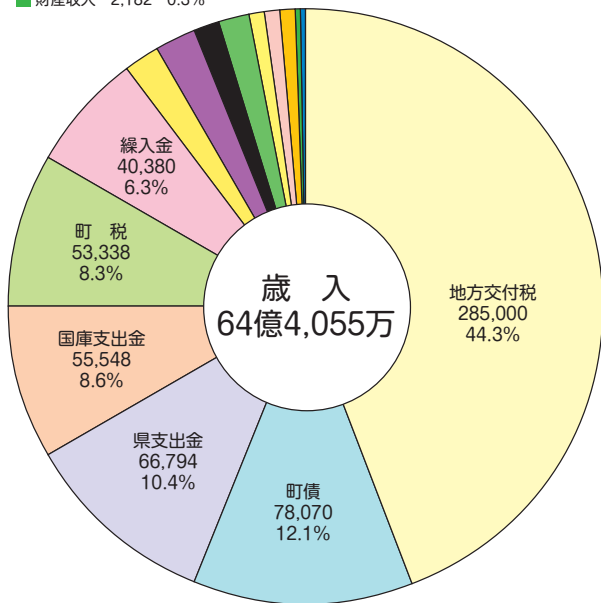
## 一般会計当初予算 64億4,055万5千円を可決!!

(前年度比 6.6%減)

3月定例会は、3月12日から20日までの9日間の会期で開催されました。今定例会では、冒頭に平成31年度の施政方針が示され、その後、人権擁護委員候補者の推薦についての諮問1件と和泊町新庁舎建設事業変更契約の締結、沖永良部与論地区広域事務組合からの脱退について、町条例の制定や一部改正、平成31年度の各会計の当初予算及び平成30年度補正など、20議案が上程され、原案のとおり可決しました。

- 諸収入 13,463 2.1%
- 使用料及び手数料 12,750 2.0%
- 繰越金 10,000 1.6%
- 地方消費税交付金 9,500 1.5%
- 地方譲与税 6,330 1.0%
- 寄附金 5,000 0.8%
- 分担金及び負担金 4,968 0.8%
- 財産収入 2,182 0.3%
- 自動車取得税交付金 400 0.1%
- 交通安全対策特別交付金 137 0.0%
- 地方特例交付 85 0.0%
- 利子割交付金 70 0.0%
- 配当割交付金 30 0.0%
- 株式等譲渡所得割交付金 10 0.0%
- 環境性能割交付金 0 0.0%

- 議会費 8,000 1.2%
- 商工費 7,429 1.2%
- 予備費 1,072 0.2%
- 災害復旧費 248 0.0%
- 諸支出金 200 0.0%



(歳入)

(歳出)

(単位:万円)

款	予算額	構成比
1 町税	53,338	8.3
2 地方譲与税	6,330	1.0
3 利子割交付金	70	0.0
4 配当割交付金	30	0.0
5 株式等譲渡所得割交付金	10	0.0
6 地方消費税交付金	9,500	1.5
7 自動車取得税交付金	400	0.1
8 環境性能割交付金	0	0.0
9 地方特例交付金	85	0.0
10 地方交付税	285,000	44.3
11 交通安全対策特別交付金	137	0.0
12 分担金及び負担金	4,968	0.8
13 使用料及び手数料	12,750	2.0
14 国庫支出金	55,548	8.6
15 県支出金	66,794	10.4
16 財産収入	2,182	0.3
17 寄附金	5,000	0.8
18 繰入金	40,380	6.3
19 繰越金	10,000	1.6
20 諸収入	13,463	2.1
21 町債	78,070	12.1
歳入合計	644,055	100.0

款	予算額	構成比
1 議会費	8,000	1.2
2 総務費	99,186	15.4
3 民生費	119,864	18.6
4 衛生費	35,421	5.5
5 農林水産業費	98,770	15.3
6 商工費	7,429	1.2
7 土木費	86,800	13.5
8 消防費	24,527	3.8
9 教育費	44,475	6.9
10 災害復旧費	248	0.0
11 公債費	118,063	18.3
12 諸支出金	200	0.0
13 予備費	1,072	0.2
歳出合計	644,055	100.0

# 特別会計予算 27億6,629万円

(単位：万円)

会計名	本年度 予算額	前年度 予算額	比較	本年度予算の財源内訳			
				特定財源			一般財源
				国県支出金	地方債	その他	
国民健康保険 特別会計	91,453	91,202	251	59,351			32,102
介護保険 特別会計	98,741	96,522	2,219	41,508		25,040	32,193
後期高齢者 医療特別会計	8,534	8,349	185			218	8,316
下水道事業 特別会計	33,851	26,633	7,218	6,700	7,560		19,591
農業集落排水 事業特別会計	24,155	20,971	3,184	3,847	1,580		18,728
奨学資金 特別会計	1,019	1,321	-305				1,019
水道事業会計 (収益的事業)	18,876	18,915	-39			18,876	0
合 計	276,629	263,916	12,713	111,406	9,140	44,134	111,949

## 花で結ぼう虹の架け橋 フラワー都市交流連絡協議会

フラワー都市交流連絡協議会は、花をまちづくりのシンボルにし、活力と安らぎのある住みよいまちづくりを目指す全国9都市の花のまちが集まったもので、魅力ある地域づくりを図ることを目的とし、交流訪問事業や各都市間の花苗等の交換、交流物産展、東日本大震災被災地へのシンボル花の提供などを行っている。

4月24日、11年ぶりに本町で開催され、約250人が交流を深めた。

総会后、わがまち紹介では、各都市の首長と観光推進員が各都市の特徴や魅力をPRした。夜は、フラワーパーティーがあり、地元各種団体による唄や踊りを楽しみながら、黒糖焼酎やえらぶ牛、やぎ汁に下鼓を打った。次回開催は、兵庫県宝塚市で開催する。



祝舞「かぎやで風」



首長・議長による鏡開き

## 議会を傍聴してみませんか。

議会は、町の予算や身近な問題について話し合う大切な場です。  
 定例会は、年4回(通常3・6・9・12月)、また必要に応じて臨時会を開催することもあります。  
 本会議は公開されており、どなたでもその様子を見ることができます。お気軽に議事堂にお越しください。お問い合わせは、議会事務局(92-2569)まで



# 一般質問

## 町民に代わって行政を問う

平成31年（3月）第1回議会定例会

町民の生活を一生涯快適に!!



まつむら きめえ 松村 絹江 議員

猫の不妊・去勢手術に係る助成制度について

問 平成28年第4回定例会に同様の質問をしたが

その後の取り組みは。

答 飼い猫の場合は、室内飼育等の指導、野良猫等に餌等を与えて多頭飼育状態になっている場合は、餌を与えない等、猫を寄せつけないよう指導を行っており、苦情件数は減少傾向にある。

また、サンサンテレビの文字放送を利用し、飼養方法やマナー等についても啓発している。

問 手術費の費用助成は考

えてないか。

答 猫は基本的には室内で飼うことになっている

ので、飼い主がルールをしっかり守って飼うことにより、妊娠等は避けられると考えているので、猫を含めた愛玩動物の不妊・去勢手術の助成については考えていない。

なお、今後も、県と協力を図り、適正な飼養管理について啓発していく。

教育行政の重点施策について

問 「社会体育の推進」の中で、各種スポーツ施設の整備と維持管理とあるが、具体的にはどのような計画か。

答 スポーツ少年団指導者連絡協議会から要望のあった和泊小学校及び国頭小学校の夜間照明の新設や改修工事のほか、来年度に本町で開催予定の大島地区大会弓道競技の試合会場となる、弓道場の環境整備等を行う予定である。

また、今後の社会体育施設の整備と維持管理について

は、昨年策定された和泊町公共施設等個別施設計画の整備方針に沿って、適正管理に努める。

問 総合体育館建設に向けて、町民と建設的な意見交換ができる場を設ける考えはないか。

答 庁舎内に体育館検討プロジェクトチームを設置し、財政事情や国等の補助事業の活用も念頭に置きながら、協議を進めていきたい。

さらに、各種団体の代表による専門部会を立ち上げ、必要に応じて各種競技団体や社会体育施設一般利用者の意見の収集、町民の意見募集としてのパブリックコメントを実施し、より多くの町民の建設的な意見を聞きながら進めていきたい。

問 越山運動広場の活用を、町民に広く伝える方法は考えているか。

答 近年、グラウンドゴルフ競技人口も増え、町民運動広場の活用に支障が出てきたため、研修センターの運動広場

をグラウンドゴルフにも使用できるように、平成29年度に芝生の植え付けと休憩施設として東屋を整備し、今年度はこれまで約850名の方々に利用されている。

運動広場の活用の周知については、今後の活用促進のためにも指定管理者と協議して、防災無線やサンサンテレビ文字放送等とおして町民へ周知していきたい。

児童虐待防止のための取り組み



いけだ しゅういち 池田 正一 議員

児童福祉について

問 施政方針の中に、「児童虐待防止のための取

組」とあるが、具体的にはどのような取り組みなのか。ま

た、関係機関との連携はどのようなになっているのか。

**答** 要保護児童や要支援児童についての相談や連絡を受けた場合には、該当事案について事実関係を整理するための聞き取り等の調査を行ない、個別ケース検討会議を随時開催し、緊急を要する事案の場合は、児童相談所と連携を図って対応している。

今後も、各関係機関や地域住民と連携し児童虐待防止への取り組みを、強化していく。

**有害鳥獣駆除対策について**

**問** カラス捕獲の状況はどのようになっているのか。

**答** 現在、農作物の被害軽減のため、銃器と捕獲器による駆除を行っている。猟友会においては、被害対策研修会への参加など技術向上に努めている。

また、平成29年度から移動式カラス捕獲器を導入して、設置場所を検討するとともに、捕獲器の進入口を広くす



移動式カラス捕獲箱

るなど工夫をしているが、駆除数の増加には至っていない。今後も捕獲に有効な情報を収集

### 農業振興・地域経済の活性化と学校教育の充実について



議員 谷 重明

集して、継続した捕獲活動に努めていく。

がどのようなものか。

**答** 屋根を設置した簡易保管施設を建設中であり、延べ面積118平方メートル、収納量、約60トンを予定している。

**問** 百合の切り花の販売に關して、どのようなPR活動を実施し、価格安定と予約相対率向上を図っていくのか。

**答** 県の地域振興事業である「えらぶ花の島リザレクション事業」を展開し、本年度は関東圏の中央卸売市場で中卸やセリ場前において、県産成品種のプチホルンとピュアホルンを中心に関係機関とPR活動を実施した。来年度も3出荷団体を中心に同事業を継続し、予約相対率向上を目指して支援していきたい

### 農業振興について

**問** 本町で耕作される作物には消毒は不可欠であるが、関係機関と連携し、さとうきび、バレイシヨ、里芋の消毒にドローンは導入できないか。

**答** 空中散布用の農業は高濃度であり、近隣への農業飛散等の問題もあるため、関係機関と連携しながら慎重に検討していく。

**問** バレイシヨの一時保管場所が設置されている

たい。

**問** 地域おこし協力隊を採用し、地域農産物の高付加価値化の推進と農産物加工センターの有効活用に向けての取り組みとは、どのようなものか。

**答** 新たな地域おこし協力隊の活動により、農産物加工センターに、島の農産物などの地域資源が集まり、付加価値の高い新たな産物が生まれる拠点として、町民に有効活用していただける施設となることを目指す。

**問** 「温暖な気候を活かした複合経営を基本に持続性の高い和泊農業の確立」を推進するために、具体的にどう取り組んでいくのか。

**答** 奄振事業等の有効な事業を活用し、栽培施設導入や労力軽減のための農業機械の導入等を推進し、生産環境の整備や各種研修会等の開催により栽培技術の向上を図っていく。

**商工・観光・地域経済活性化について**

**問** 大河ドラマ「西郷どん」の放映を一過性のブームにならないよう持続可能な観光のまちづくりに取り組むとのことだが、具体的な計画はあるのか。

**答** おきのえらぶ島観光協会が中心となり、平成29年3月に、島の持続可能な観光産業の実現を目的に「アイランドプラスおきのえらぶ島計画」という基本計画書が策定されている。

計画においては、「島のものにこだわる」、「島の暮らしにこだわる」、「島の精神にこだわる」という三つの柱を掲げている。

**健康の増進について**

**問** 健康増進拠点施設「タラソおきのえらぶ」は厳しい経営状況にあるが、施設の利用促進について、どう取り組んでいくのか。

**答** 経営状況については、毎年利用者が伸び悩んでいるなか、収入もほぼ横ばいで推移し、毎年度、指定管理料のほか、施設や機械設備等の維持・補修費等として

多額の費用を町が負担しており、厳しい状況である。

今後とも施設・機器等の老朽化に伴う維持補修費等の負担が見込まれるなか、施設の利用促進、改善に向けた対策は喫緊の課題であるが、指定管理者自らによる経営健全化のための具体的な努力、取り組みなど促しながら、町としての改善方針を定め、相互に連携を図り、施設の利用促進、経営改善に努めていく。

**学校教育の充実について**

**問** 昨年度から学校教育の問題が指摘されているがスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラー等、関係機関と連携し万全な対策が取れたと考えるか。

**答** 学校や保護者からの要望による相談活動、家庭訪問による家庭生活面での支援や助言、町保健福祉課や町民支援課、学校とのパイプ役など有効に活用できている。関係機関と連携した様々な対策をとってきた結果、学校教育の問題は徐々に減少し

てきている。

引き続き、不登校や問題行動の解消、学校教育の問題解決のため有効活用を図っていく。

**教育行政について**

**問** 教育行政の重点施策の中で、本町教育の基本目標は「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり・文化づくり」となっているが、今現在、本町の教育の中で一番に取り組むべき課題はどのようなことか。

**答** 一番に取り組むべき課題は、「学力向上」であり、子どもたちが生涯にわたってよりよく生きていくための技能やものの見方・考え方を養い、自己実現のための能力を獲得し、それを支える心身の健全育成を図るために、重要な要素だと考える。

**問** 現在、いじめや他の理由で不登校等の児童生徒は何名把握しているか。また、その現状を踏まえ対策をどのように講じているのか。

**答** 不登校気味の児童生徒は小学校で2件、中学

校で4件あり、理由としては、学業不振や生活リズムの不安定、友人との人間関係等、様々な原因が挙げられる。

小学校、中学校、いずれも関係機関と連携を図り、対応している。

**問** 人権同和教育学習資料や実践例集を活用した学習及び参加型研修の実施により、どのような成果がでているのか。また、今後の課題は何か。

**答** 成果としては、  
①命の大切さや相手を思いやる心の育成  
②よりよい仲間づくりに向けて集団生活の在り方や個々の違いを認め、個性を發揮できるように子どもへの育成  
③差別に気付き、差別をなくそうとする心情の育成  
などがあり、今後の課題は、更なる啓発と児童生徒の主体的取り組み及び日常生活における人権尊重の実践化であると考えている。

さとうきび振興対策について



ひがし ひろあき 議員 東 弘明

さとうきび振興対策について

問

議員大会で、本町の提出

議員 沖永良部・与論地区議



ハーベスタによる収穫作業

利用助成金の創設について「が採択され、今後関係機関に陳情活動を展開していくが、過去の事業実施を踏まえて、今後助成金の創設についての見直しはどうか考えるか。」

答

収穫作業の料金設定は、燃料費や原価償却費などの諸経費や人件費等をもとに決定している。

また、生産者の標準的な生産経費を補填する交付金単価の積算にも、ハーベスタ利用

料金等の生産コストを考慮している。現状では、困難な状況である。

問

13・1度の見直しを、他市町村と連携して、国や関係機関等に要望することはできないか。

低糖度に対応として、基準糖度帯の最低糖度

答

低糖度に起因する基準糖度帯の見直しは、生産者の生産意欲が低下するだけでなく、製糖工場の製造コストを増加させ、経営の悪化につながる。

今後とも生産者が意欲をもって取り組めるような再生産可能な水準を確保できるように、他市町村や県と連携を図り、要望していく。

問

小規模農家や生産農家の高齢化に対応するため、小規模な法人組合等の立ち上げについて計画はできないか。

農作業の受託者連絡協議会を組織し、同システムが構築され3年目を迎えているが、春植の調苗・植付

答

農作業の受託者連絡協議会を組織し、同システムが構築され3年目を迎えているが、春植の調苗・植付

に関して、対応が困難になりつつあり、ハーベスタ苗を使用したビレットプランターの導入も検討している。小規模な法人組合等の立ち

和泊町有線テレビの運営について



かつら ひろかず 議員 桂 弘一

和泊町有線テレビの運営について

問

サンサンテレビ運営の現状はどのようになっているのか。また、今後の課題について、町としてどう考えているのか。

開局して10年が経過していることから、随時、機器の更新を行っており、更に、台風被害のたびに復旧費にも高額な費用が高んでい

る。今後は、必要性を精査し、

答

有線テレビ運営の長期的な計画を策定するためにも、町民アンケート等を実施し、必要であれば、使用料の見直しの検討も必要だと考えている。

上げについては、各農家により状況が異なるので、農家から相談があった場合は、それぞれに応じた適切な支援を実施していく。

問

民間委託の方向性や内容が定まっているように思えないが、どう考えているのか。

答

番組内容に関しては、今後、町民アンケート等で加入者の意見を取り入れて充実に図っていく。

運営は、非常に厳しく、現在、町職員で行っている加入者管理や有線テレビ設備の維持管理も合わせた業務委託の拡大を行うことで財政軽減を図るほか、町民に寄り添ったサービスの提供、インターネットを活用した放送の導入による島外からの視聴もできる



仕組づくりなども検討し、使用料収入の増を図り、施設の維持管理費に充当することにより、持続性のある有線テレビ運営に繋げていきたい。

ICTとタブレットの活用について

**問** 情報化社会やペーパーレス化社会及び働き方改革等に対応するためにも、議会と執行部が同時にタブレット端末の導入を検討すべきと考えるが、町長はどのように考えているのか。

**答** 情報化社会やペーパーレス化社会に対応するために、タブレット端末の導入は紙使用料の削減、例規の閲覧による議会の効率化等、有効な手段だと認識している。また、新庁舎建設に併せてタブレット等を使用するための無線LAN環境を議場に設置してあるので、今後は、他の導入自治体、導入業者や議員及び執行部それぞれの意見を伺いながらシステムの導入を検討していく。

教育行政について

**問** 城ヶ丘中学校区の学校適正規模検討委員会の必要性について、どのように考えているのか。

**答** 学校統合の適否又は小規模校を存続する場合の検討の指針となる文部科学省の「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、本町の実態を踏まえて考えている。

各学校の学級編制が完全複式になり、児童数が極少人数まで減少した段階で検討をしていく。

統廃合により、地域コミュニティの核としての学校の消滅、校区人口の減少、地域の活力の衰退等の問題を考慮すれば、単に児童数の減少だけで統廃合を推進することは適切でないと考えます。

学校適正規模検討委員会については、児童生徒数の推移を見ながら、地域の方々の小学校や中学校の統廃合を進める気運が大勢になってきた時、検討していくことが適切である。

問

城ヶ丘中学校区の学校運営協議会の必要性について議論はなされているのか。また、設置に向けての調査・研究は進んでいるのか。

**答** 議論を進めるためには、学校運営協議会制度についての理解から始めなければならず、教育委員、各学校の校長や教頭が学校運営協議会制度について、各種資料やコミュニケーションスクールからの情報をもとに、調査・研究を進めている。

設置については、今後も、全国や県、大島地区の動向を注視しながら、調査・研究を進めるとともに、学校や保護者、学校評議員会、校区民の意見等を参考に、設置の可否を考えていかなければならない。



フラワー都市交流

「みんなでおもてなし!!」



議員 和夫 喜井

公共施設の管理について

**問** 大河ドラマ「西郷どん」放映後も観光客は多く、貸切バスの件数が増加し、高齢の観光客が増えているなか、公衆トイレの多くが和式だが、バリアフリー化を図り、洋式トイレの導入を検討できないか。

**答** 平成29年度のバス企業団の島外の観光ツアー貸切バス実績は、運行回数が2割増の241回と大幅に増加しており、観光客は増加傾向である。

現在、「公共施設等総合管理計画」において、公共施設の総合的な改修を含めた協議・検討を行っており、公共施設等適正管理推進事業債の

活用も検討しながら整備していく。

**問** 町民体育館解体後、社会教育・体育関係イベントの際には和泊中学校の体育館を利用することが多くなっているが、二階の手すり部分の間隔が広く、乳幼児等には危険な構造になっている。今後、対策を検討できないか。

**答** 対策としては、表示板の設置による注意喚起や乳幼児等を同伴した保護者の使用を遠慮してもらうほか、やむを得ず使用する際は、保護者の自己責任を促すとともに、場合によっては係員を配置するなど安全な活用に努めていく。

農業振興について

**問** 昨年同様、バレイショの価格が低迷しており、JAへの持ち込みが集中すると予想されるが、どのような対策を講じていくのか。

**答** バレイショ選果機の出荷レーンが、昨年11月に一部改修工事がされており、故障などによる時間的なロスも減り、現在、順調に選果作業が行われている。

現状の選果量については、日量で約100トン選果できる体制を整えている。

**問** 今後、推進できる新しい作物の検討はなされているのか。

**答** 新たな作物や品目の創造については、栽培に適した品種の選定、さらには消費者の趣向や販売経路などの問題が考えられるので、現時点においては、現状の作物の優位販売の手法や栽培品種の再検討を考えており、県において有望品種の研究開発がされているので、栽培試験を行っている。

**て** **フラワー都市交流について**

**問** 異常気象により、現在百合等の開花が早まりそうだが、4月に本町で開催されるフラワー都市交流連絡協

議会総会に向けて、対策は考えているのか。

**答** 2月の平均気温は昨年と比べ、2.8度高く、また、月間降雨も50ミリほど多い120ミリを超え、高温多雨の気象条件だった。生育状況を確認した結果、メイン会場となる、笠石ゆり園や百合の塔前のスカシユリ

は、開催日となる4月24日には満開を見込んでいるが、沿道の百合やその他の花の生育が進み、開花状況が懸念されている。

今後は、実行委員会の環境整備部会での協議を考慮し、各団体に御協力いただきながら、一部の植え替えやさらなる植栽を進めて行きたい。



議員による奉仕作業：笠石公園ゆり園の除草作業



**スマート農業、推進へ!!**



かわばた こういち 議員  
川畑 宏

（※ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業）

**問** サトイモの種芋確保へ向けた取り組みの進捗状況はどのようになっているか。

**答** 実験農場の圃場において1トンの種芋を11月から1月にかけて植え付け、順調に生育しており、収穫時期は、6月下旬から7月を予定している。

生産農家においても、各自で種芋の確保に向けた取り組みをお願いしたい。

**問** 農家の新規作物導入に対する支援はどのようなものがあるか。

**答** 栽培に適した品種の選定、さらには消費者の趣向や販売経路等の問題が解決し、新規品目として位置付けられたら、出荷団体や農業普及課等との協議を重ねたうえで、栽培環境整備の支援策等を考えていく。

**農業振興について**

**問** 平成30年第4回定例会において、農業の人材確保について、「現時点では具体的な施策はないが人材確保に取り組みの必要性を感じており、しばらく時間を要する」旨の回答を頂いた。その後、どのような検討がなされているか。

**答** 高齢化が加速する中で人材確保の問題は、農業だけでなく、どの業界においても深刻な問題となっている。

平成31年度から奄振事業の農業創出緊急支援事業の新たなメニューに、※スマート農業導入のための実証が盛り込まれたので、積極的に取り組

町民サービスの向上に向けた取り組みについて

**問** 職員のワークライフバランスに関しての見解と取り組みはどのようなになっているか。

**答** 国の定義などを基に、「和泊町特定事業主行動計画」を策定し、さらに次世代育成支援対策を充実させるため、平成27年度に第2次行動計画を策定した。

この計画の中で、子育て目的の休暇等の取得や育児休業取得、特に男性職員の取得について推奨しており、また、勤務時間の縮減などを推進することとした。

職員が個々の能力を充分に発揮するためには、家庭内の安定が不可欠だと考えており、子育て中の職員においては、家庭での生活を大事にするよう、また、学齢期の子どもを持つ職員には、PTA活動などへの参画を促し、そのための休暇取得に関しても推奨している。土曜日・日曜日においても家庭内での時間を大切にすよう、常々職員へ

伝えている。

**問** 新庁舎での業務が始まり早くも二ヶ月が経過も多しと思われるが、新庁舎に

対応し工夫をしている点はどのようなものがあるか。

**答** 来庁者の利便性を考慮して、総合案内所を設け、玄関ロビーには植栽や絵画を配置し、来庁者が安心して訪問して頂けるよう工夫している。

また、旧庁舎とは違い、オーブンフロアで開放的な造りとなっているが、それとは反対に、「職員の視線が気になる」といった意見も耳にしており、そのような場合は相談室を利用するなど、プライバシー保護の対応に心がけている。

各種行事等の運営について

**問** 本町においても、各課や各団体主催の行事等

が数多く実施されている。これらについて、ニーズの検証や運営方法の改善などは、どのように行われているか。

**答** 各種行事を開催するにあたり、住民の需要・要望等を把握・考慮し、内容等を検討している。

一方、低ニーズでも、行政側の意思・責務として実施する研修会等もある。

実行委員会があるイベントについては、実行委員会によって、イベント開催後に反省会が開かれており、検証したうえで、次の開催に向けて改善策が検討されている。

教育委員会が主催する行事については、それぞれのケースごとに必要に応じて、実施の是非を含めて検討や改善を行っている。

これまでの具体的な取り組みとして、町民文化祭と生涯学習推進大会、福祉健康まつりを文化と福祉の祭典として同時開催にしたり、毎年開催を隔年での開催に変更した。

また、検討の結果、開催時期を変更するなどの改善も行った。

さらに、行政が積極的に関わる部分と各種団体が主導する分野を明確にし、団体の自

立を促すような取り組みと改善も行っている。

人口減少やコンパクト行政の必要性が提言される現状において、今後さらに、スクラップアンドビルドを念頭に置きながら、必要性や優先度を考慮しつつ随時見直しを行っていく。

タラソおきのえらぶの運営について

**問** タラソおきのえらぶは、健康増進や観光資源としての活用等々、町民にとって

非常に価値のある施設である。しかし経営や町の財政状況から、今後、施設維持に対す

る長期的な見通しは決して明るくない。

町としての方向性はどのように考えているか。

**答** 国の指針により、本年度中に「株式会社えらぶ海洋企画」の抜本的改革を含む経営健全化方針を策定することとしているが、このような状況（7ページ 前議員の答弁参照）が長期に及ぶようであれば、町の財政にも影響が生じて来るので、当面の策として、新規会員の確保など利用促進に向けた取り組みを重点的に進め、新たなメニューの開発も検討しながら経営健全化に努める。



タラソおきのえらぶ

平成31年度予算編成にあたって



なかだ たかひろ 中田 隆洋 議員

新年度予算について

問 平成31年度予算編成の方針と特色はどのようなか。

答 予算編成にあたっては、限られた財源を有効に活用することが求められており、自らの財政構造の点検を十分に行うとともに、引き続き必要性の高い施策・事業を選択し、経費全般における節減や合理化、自主財源の確保等の持続可能な行財政構造を構築し、人口減少や少子高齢化対策、台風や地震等の自然災害に備えた防災対策や公共施設の老朽化などの諸課題に的確に対応するとともに、次期奄振法の目的や未来を見据えた持続可能な町政運営を展開するため、各種施

策に取り組むこととしている。

特色については、新規事業として子育て支援策の充実やふるさと納税の有効活用、公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の適正管理、第6次和泊町総合振興計画策定に向けた取り組みなどとなっている。今後も、まちの将来像実現に向けた財政運営に取り組んでいく。

財政運営について

問 新年度予算の町税及び地方交付税などの一般財源の見直しはどのようにしているか。

答 町税については、個人・法人町民税は、景気回復等により増収が見込まれるが、固定資産税は、家屋の経年劣化等の影響による課税標準額の下落により減収、町たばこ税は、売り渡し本数の減少に伴う減収などにより、全体として減収となる見込みである。

地方交付税については、国の示した地方財政計画において、平成30年度と同水準の予算額が確保されたことや、地方譲与税や地方消費税交付金等についても平成30年度と同水準以上が見込まれており、一般財源全体としては前年度よりも増額となることが見込まれている。しかし、大部分が国からの交付金等の依存財源であることから、引き続き町税をはじめとした未

収金確保対策を強化し、自主財源確保に努めていく。

財政運営上の課題は、公共施設の適正管理と子育て支援策などのソフト事業の充実のための財源確保が今後重要であると考えている。公共施設等適正管理推進事業債」や新たに設置する予定の「公共施設等総合管理基金」等を活用し、施設の長寿命化や統廃合等に取り組むとともに、ソフト事業については、「ふるさと納税」を原資とした「ゆりのふるさと基金」を活用し、町の活性化のための諸施策への「ゆりのふるさと基金」の活用を広く広報し、地方

やふるさとを応援する「ふるさと納税」本来の趣旨に沿った寄附の拡大を図り、自主財源確保に努める。

教育行政について

問 新年度教育行政の重点施策の特色はどのようなか。

答 ①学力向上  
1. 「家庭学習60・120運動」を「家庭学習60・90運動」に変えて、中学生の家庭学習の時間を十分に確保する。  
2. 小学校での外国語活動や外国語科授業の充実を努める。中学校では、卒業時に英語検定3級の取得目標が示され、県でも取得目標を50%と設定している。和泊町では、「卒業時に英検3級以上の取得率70%以上」を目標として、生徒の学習意欲の喚起と外国語学習の充実を図っていく。

②郷土教育と伝統文化教育の推進  
ユネスコが認定した絶滅危機言語・方言の中で沖永良部の国頭言語が危険と認定され、このほど、調査研究事業を行っている

る国立国語研究所と和泊町が提携を組んだ。

今後、事業の具体的な取り組みを通して、沖永良部語の保存・継承に努めていく。

③小規模校教育の振興

小規模校では一人一人が主役となり、同年齢・異年齢の絆を強くし、相互に支え合い学び合う教育活動に努める。具体例として、小規模校による小交流や運動会や文化祭で子どもが演技や役員をして活躍する活動、地域の方々との交流を通して伝承芸能を学ぶ活動などが挙げられる。

④教育環境の整備・充実

来年度から、各小・中学校及び幼稚園の普通教室への空調設備の整備を進めていく。また、総合体育館建設に向けての検討や町誌編纂に向けての準備、検討会を進める。

以上、特色ある重点施策の一部を説明した。和泊町の未来を担う人づくり・文化づくりをしっかりと推進していく。



## 第27回 沖永良部・与論地区議会議員大会

2月6日に沖永良部・与論地区議会議員大会が防災拠点施設やすらぎ館で開催され3町からそれぞれ議題の提出があり、全会一致で採択され、国や県、関係機関等への陳情活動が展開される。

### 本町提出議題「さとうきびハーベスタ利用助成金の創設について」

奄美群島の農業は、温暖な気象条件等を生かし、基幹作物のさとうきびと園芸や肉用牛を組み合わせた複合経営を中心に展開されており、国内農業のなかで、重要な役割を担っています。さとうきびについては、我が国における甘しょ糖の数少ない供給産地であるとともに、台風等の自然災害に比較的強いなど、奄美の自然条件に適した作物であり、農家の約8割、農地の4割で栽培され、地域の農業で重要な地位を占める基幹産業となっています。

また、甘味資源は、国の食料供給の中で非常に重要な要素を占めており、さらに主要産地は南北にあり、単なる甘味資源だけでなく国防安全保障の面からも国策上重要な位置づけとなっています。さとうきびは国策上、国防上はもちろん農家だけでなく地域経済、雇用確保にまで関係する重要な作物であるといえます。

しかし、人口減少や農業従事者の高齢化など農業・農村の構造が変化する中で、将来にわたり地域農業の維持・発展を図るため、高齢農業者の豊富な経験や知識・技術を生かした生産活動等を支援するとともに、高齢者が生産活動や地域づくりに参画しやすい地域営農の仕組みづくりを促進する必要があります。

また、小規模農家が奄美の農業を支えているという実情の中、更なる過疎化を招かぬよう担い手への農地集積・大規模農家の育成と併せて小規模農家に対する施策の充実強化も重要であります。

そのようなことから、小規模農家や生産農家の高齢化に対応するため、さとうきびの生産・収穫作業を主体とする受託事業により、さとうきびの生産維持と品質向上に努めているところでありますが、複合経営による農家の経営向上を図ることを目的とした収穫作業のハーベスタ委託の需要が増加する中、生産コストの低減及び生産構造の強化を図るため、国費によるハーベスタ利用助成金の創設をしていただきたく強く要望いたします。



提出議題を説明する中田経済建設委員長

### 議員研修会

「ICTとタブレットの活用がひろがる議会・防災・働き方改革」と題して、東京インタープレイ(株)米田英輝氏を講師に招き、タブレット端末の初歩を研修した。

実際にタブレットを手にした研修会に、一同引き込まれるように真剣な面持ちで臨んでいた。

これからペーパーレスにすることによる経費削減や環境への配慮など、併せて導入のメリットについても検討・研究していく。



タブレット研修会の様子

## 和泊町議会開場式



和泊町役場新庁舎開庁に伴い、平成31年第1回定例会開会日に和泊町議会議場の開場式を執り行った。

開場式には永野利則議長をはじめとする町議会議員と伊地知実利町長をはじめとする町執行部職員が参加し、桂弘一副議長が「新しい議場の開場を祝すとともに、新しい時代の和泊の更なる発展を祈念し、町民のための議場になるように、ここに和泊町議場の開場を宣言いたします。」と開場を宣言し、永野議長からは「旧議事堂と同様に議会と執行部が活発な議論をし、町民協働のまちづくりが進められることを念願する。」などと述べた。

### 編集後記

新緑が映え、万物の躍動が感じられる3月、第1回定例会が開催されました。8名の議員が一般質問をしました。年頭には新庁舎での業務がスタートしましたが、感想はいかがでしょうか。和泊町の新年度の予算も可決された今、議員として、皆様の豊かさを実感できる使い方がされるようしっかりと監視、意見して参ります。平成も残りわずか、間もなく新元号「令和（れいわ）」に変わります。梅の花に由来するこの元号のように、平和の花、咲き薫る時代になるようお願いしつつ、新たな決意で出発して参ります。

(文責 東 弘明)

議長 永野 利則

副委員長 池田 正一  
委員 松村 絹江

同 川畑 宏一  
委員 東 弘明

議会報編集委員

